

とよひら・りんく NewsLetter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 「とよひら・りんく」事務局

第4回合同会議を開催

2012年2月20日(月) 18:30~20:30

西岡福住地区センターにて、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」の第4回合同会議を開催しました。

地域内の医療機関の医師・地域連携室、診療所の医師、福祉施設の管理者、訪問看護師、介護支援専門員、行政担当者等、63名の出席がありました。今年度の活動総括の報告、事例検討会、訪問薬剤指導の案内等を行いました。



[合同会議の様子]

2011年度の活動総括について

フロアからの意見・アンケート結果より(一部)

- 課題と達成状況が分かった。課題が次から次に出てくると思います。
- 特に課題と解決策を興味深く聞かせて頂きました。
- 今は立ち上げの時期ですが、これからの対応に期待をしています。
- 地域での連携の大切さを感じている。
- 会議の参加だけでは、実際の活動が見えてこなかったが、そこが見えて良かった。
- 医師を中心に、具体的な事例説明と課題がわかった。
- 登録者が着実に増えている印象を受けた。
- 医師(病院と診療所)間の連携の状況は良くわかったが、その他の職種との協働が見えなかった。

事例検討会について

事例① 在宅で看取りを行った事例について

一寺本信医師(西岡水源池通りクリニック)

看取りを行うことをご家族と相談した後に、訪問看護を導入したケースであった。ご家族は訪問看護師に医師には言えないような相談をすることが出来たので、訪問看護との連携は重要だと感じたとの報告があり。

・フロアからの意見等

(医師) ご家族の看取りへの受け入れについてはどうだったのか?

→(担当医師) 次第に全身状態が低下していったので、ご家族も受け入れられたと思う。急な状態変化やご本人が苦痛を訴えられた場合は、入院の希望が出たかもしれない。

本協議会 中島会長より今年度の活動総括の報告を行いました。報告の一部をご紹介します。

【課題①】連携の基盤である医療福祉従事者の顔の見える関係が構築されていない。

⇒協議会(「とよひら・りんく」)を設立し、規約等の整備を行った。6.9.11.2月に合同会議を開催した。

【課題②】多職種での情報が共有されていない。

⇒ホームページを作成し、会議後には、ニュースレターを作成し、共有化を図った。

【課題③】地域内で24時間体制が構築されていない。

⇒地域の医師の輪番制による共同支援体制を構築し、コールセンターを設置した。1病院3診療所の患者情報の登録があり。

【課題④】介護・福祉施設内での看取りの取り組みが出来ていない。

⇒2012年1月に意見交換会を開催した。

3事例の事例検討会を行いました。3名の医師(病院1医師、診療所2医師)に発表をして頂きました。

2事例につき、ご紹介を致します。

事例② 診療所・病院間で連携を行ったケース

ー鈴木郷医師（ごう内科クリニック）

在宅にて訪問診療で対応していた患者様が、ある土曜の午後に状態が悪化し、入院を依頼したケースの経過報告があり。

・フロアからの意見等

（入院を担当した医師）初めて診察を行う患者様を入院で受け入れるのは、様々なリスクが想定されるため、プレッシャーがある。そこで「顔の見える関係」が大切になる。普段から連携を行っている医師同士であると、ある程度のイメージが出来るので、退院までスムーズに連携することが出来た。

（担当介護支援専門員）退院前にカンファレンスを設けて頂けたので、情報を共有することが出来て良かった。病院は敷居が高いというイメージがあるが、今回は病院側より声をかけて頂き、良かった。

フロアからの意見・アンケート結果より（一部）

- 医師間の顔の見える連携の重要さを感じました。
- 具体的な「とよひら・りんく」の連携が見えました。
- 各事例が目につかぶ報告で、勉強になりました。
- 患者様のニーズにどこまで対応できるかが課題だと思う。
- ご本人、ご家族の気持ちが病状の変化と共に変化していき、難しい面もあると感じた。
- 事例が一般的すぎるのでは・・・。

訪問薬剤指導について

西岡メディカル薬局の上田直人薬剤師より訪問薬剤指導のご説明がありました。当地区でも患者様のニーズに応じて対応していきたいと思えます。

フロアからの意見・アンケート結果より（一部）

- 患者様が必要としているサービスだと思う。
- 薬の重複や飲み残しはよくあり、薬剤師の力を借りたいと感じた。
- 薬剤師による居宅療養管理指導を利用しているも、今一つ連携がなされていないと思う。
- 医師による居宅療養管理指導と訪問看護による服薬管理に頼る傾向が多数であると思うので、訪問薬剤指導について、より周知が必要であると思う。

アンケートより

出席された方々にアンケートを行いました。
ご意見の一部をご紹介します。

- ◆合同会議の場で顔を合わせることで、病院・診療所の医師に相談を行いやすくなった。最近も主治医のいない患者様の介護保険認定を受けるために、ある診療所の医師にお世話になった。
- ◆先駆的な取り組みを評価する半面、これからどのように機能していくのか注目しています。地道な取り組みが必要だと考えます。顔の見える関係の重要性が強調されていましたが、そこに満足することなく、人と人だけでなく、システムとして機能していくことを期待しています。
- ◆施設でも看取りを行えるような教育体制と医療側のフォローができると良いのでは。
- ◆看取り、ターミナルケア等についての研修会を行って欲しい

「とよひら・りんく」ホームページ

<http://www.toyohiralink.jp>

合同会議の情報、NewsLetter、各種書式のダウンロードも可能です。ぜひご覧ください。

とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 岡村・川村

電話 011-853-8322(平日 9-17時) メールアドレス: okamura@keiwakai.jp